

今日はきのうの続きだけれど

みづはしちかこ

今日はきのうの続きだけれど  
朝ごとに目覚めるように  
いちにちは 日々に新しい

きのうのぬくもりを肌に  
今日をつめたい服を着よう

ちょっとひざまづいて  
祈りにも似た気持ちで  
手早く服を着よう

窓をあけて  
きのうとは違う  
新しい季節の顔に  
あいさつを送ろう

雨でもよし 風でもよし  
曇りでも 嵐でもよし

わたしの今日は  
これから始まる

ありがとう 谷川俊太郎

空 ありがとう

今日も私の上においてくれて

曇っていても分かるよ

宇宙へと青くひろがっているのが

花 ありがとう

今日も咲いていてくれて

明日は散ってしまうかもしれない

でも匂いも色ももう私の一部

お母さん ありがとう

私をつんでくれて

口に出すのは照れくさいから

一度っきりしか言わないけれど

でも誰だろう 何だろう

私に私をくれたのは？

限らない世界に向かって私は呟く

私 ありがとう

あなたが好き 立原 えりか

あなたが好き

生きてるから好き

笑ってるから好き

くすぐったがりやだから好き

くいしんぼうだから好き

ねごと言っから好き

わがままでから好き

わたしより大きいから好き

うそがへただから好き

つめがきれいだから好き

いっしょうけんめいだから好き

愛してくれるから好き

愛してるから好き

自分のことばで 小森香子

自分のことばで叫んでみよう  
自分の心を自分の思いを  
自分のことばで

けんかも遊びもなまづくりも  
ちいさないのちをいつくしむことも  
歌もおどりも一つの仕事も  
みんな自分の意志と責任

どこかでつくられた道を  
知らぬ間に歩かされるのではなく  
自分の足で大地に立ち  
考えてみよう  
自分のことばで

それは生きていくあかし  
人間らしく生きてゆくための  
かけがえのない あかしのだから

あいたくて 工藤直子

だれかに あいたくて  
なにかに あいたくて  
生まれてきた――  
そんな気がするのだけれど

それが だれなのか なになのか  
あえるのは いつなのか――  
おつかいの とちゅうで  
迷ってしまった子どもみたい  
とほうに くれている

それでも 手のなかに  
みえないことづけを  
にぎりしめているような気がするから  
それを手わたさなくちゃ  
だから

あいたくて

うみの むかしばなし

くらげはなのお (上藤直子)

むかしむかし おおむかし

せかいも もんもこ してたとき

もんもこしてた そのときに

ちらっと なにかが ゆれたとき

ゆれた はずみに こりやどうだ

いきもの ぼちんと うまれたよ

それから どんどん ふえつづけ

とんだり はねたり うたったり

いろんな かたちに なったとき

だけど くらげの ごせんぞは

もんもこ・きぶんが さいこう！と

もんもこすがたの ままだった

もんもこ もんもこ おくまんねん

くらげは きょうも うみをいく

光とかげ 与田準一

目をひらけ、  
目をひらけ、  
一人ひとりが  
目をひらけ。

目をひらけ、  
目をひらけ、  
心のなかから  
目をひらけ。

世界にむかって  
目をひらけ、  
自分にむかって  
目をひらけ。

かげのなかにも  
光がある。  
光のなかにも  
かげがある。

光とかげの  
あるところ、  
目をひらけ、  
目をひらけ。

かばちやのつるが  
原田直友

かばちやのつるが  
はい上がり  
はい上がり  
葉をひろげ  
葉をひろげ  
はい上がり  
葉をひろげ  
細い先は  
竹をしっかりにぎって  
屋根の上に  
はい上がり  
短くなった竹の上に  
はい上がり  
小さなその先たんは  
いっせいに  
赤子のような手を開いて  
ああ 今  
空をつかもうとじている